

関ヶ原の戦いでは、徳川家康が美濃和紙で作られた采配を使用したといわれるなど、美濃は有数の和紙産地になりました。1300年あまりの伝統を受け継ぐ美濃和紙。その歴史をはじめ、伝統を受け継ぐ技をご紹介します。

- 日時 令和5年7月1日(土)  
13時30分～15時 (開場13時10分)
- 会場 岐阜関ヶ原古戦場記念館  
3階セミナールーム
- 参加費 / 無料 (別途、入館料が必要です)
- 定員 / 40名 (先着順)
- 申込締切 / 6月28日(水)  
(定員に達し次第、募集を締め切ります)
- 申込方法 / 記念館HPまたは往復はがき  
※詳細は記念館HPをご覧ください。  
(<https://sekigahara.pref.gifu.lg.jp/news/p5062/>)

美濃市講演会  
美濃和紙  
その歴史と伝統の技



#### 講師紹介

須田 亜紀 (すだ あき)

美濃和紙の里会館 館長

美濃和紙の里会館のオープンより携わり、平成26年の美濃市制施行60周年記念事業では市民らと60メートルの和紙作りにも挑戦。手漉き和紙職人や紙業界との交流を大切に、美濃和紙の振興に努めている。